

本社  
追跡調査

# 「モノづくり連携大賞」受賞グループ

## 「産学連携の仕組み、結果さまざま」

産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。

「産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。

**東大グループ**  
携帯向け高耐久被膜材を実用化

「産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。

「産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。

## 「差別化に寄与」4割 外部の問い合わせ相次ぐ

日刊工業新聞のモノづくり連携大賞は、産学連携の手法を関係者が模索していた2006年度にスタートした。小宮山宏三菱総合研究所理事長による審査委員会で「技術内容」「市場性」「社会貢献」などの特筆すべき点」が総合的に優れた「大賞」などのほか、地方小規模大学と中小企業の技術関連の教育連携など、個性的な活動の「特別賞」がある。産学連携関係者を励まし、参考にしてもら

「産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。

「産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。

「産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。

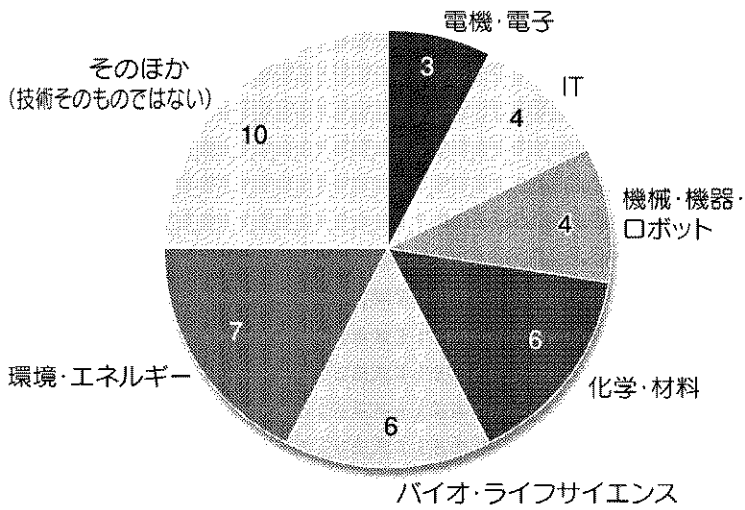
## 「斬新すぎ」取りやめも

**九大グループ**  
金属微粒細化プロセス 知財信託事業が暗転

「産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。

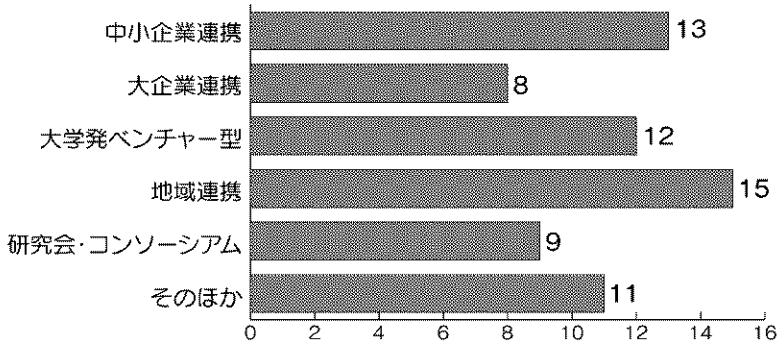
### 受賞案件の技術応用分野

(単位:グループ数、総数:40グループ)



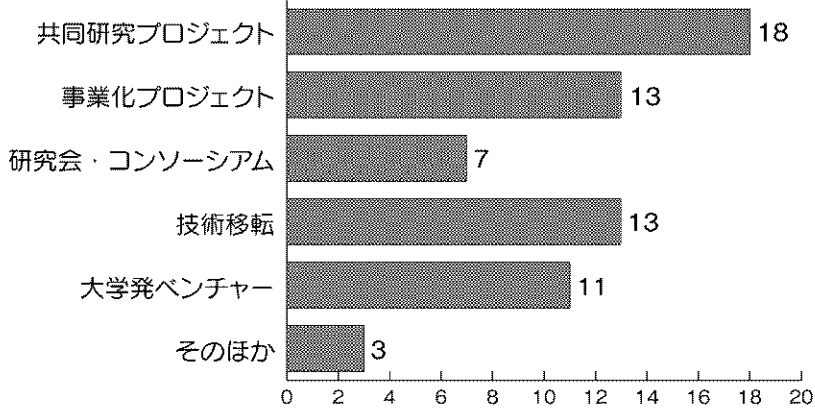
### 受賞グループの形態

(複数選択、単位:グループ数)



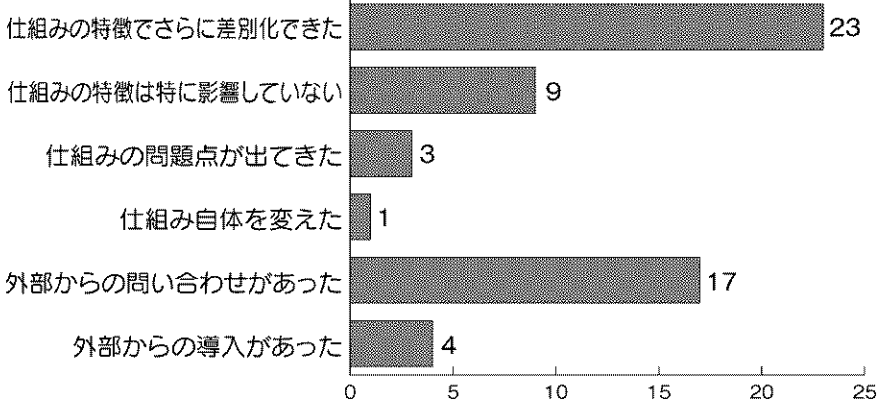
### 受賞グループの産学連携手法

(複数選択、単位:グループ数)



### 受賞の理由となった「仕組み」は、その後の活動にどう影響したか

(複数選択、単位:グループ数)



「産学連携の仕組みに注目した日刊工業新聞社の表彰制度「モノづくり連携大賞」の受賞グループは、「受賞対象となった仕組みにより、その後の活動もさらに差別化できた」と4割が感じている。過去4年間の受賞40グループにその後の姿を聞いたアンケートから、こんな状況が明らかになった。注目された仕組みについて、他機関から問い合わせが相次いだケースは多い。一方で、斬新すぎた仕組みで取りやめも出るなど、受賞例でも一筋縄ではない様子が見えつつある。